

3. 家族の状況と家族意識

3-1. 家族の状況 (FS2.3.4)

【男性】

同居家族をみると、親との同居率は【若年無子家族】が14.7%に対し、【継続無子家族】:24.0%、【若年一人っ子家族】:25.3%となっており、【若年無子家族】は夫婦のみの世帯が多い。

【女性】

同居家族をみると、親との同居率は【若年無子家族】が14.7%に対し、【継続無子家族】:24.0%、【若年一人っ子家族】:24.0%となっており、男性と同様、【若年無子家族】は夫婦のみの世帯が多い。

図表3-1. 同居家族と人数および兄弟・姉妹内地位(各単数回答)(基数:全体)

	同居家族							同居人数				本人の長男率
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟・姉妹	祖父・祖母	夫婦のみ	2人	3人	4人以上	(平均人数)	
各グループN=150	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
若年無子家族男性	97.3	0.0	12.7	2.0	2.7	1.4	84.7	84.7	7.3	8.0	2.3	68.7
継続無子家族男性	99.3	0.0	20.0	4.0	2.0	2.7	74.7	74.7	12.7	12.7	2.4	71.3
若年一人っ子家族男性	100.0	99.3	22.0	3.3	5.3	7.4	0.7	0.0	72.0	28.0	3.5	58.0
若年無子家族女性	98.0	0.0	6.7	8.0	4.0	1.3	85.3	86.0	4.0	10.1	2.3	
継続無子家族女性	98.7	0.0	7.3	16.7	0.7	0.7	74.7	75.3	12.0	12.7	2.4	
若年一人っ子家族女性	99.3	99.3	8.7	15.3	2.7	4.0	0.7	0.0	76.7	23.3	3.5	

3-2. 家事の実行者(Q10)

【男性】

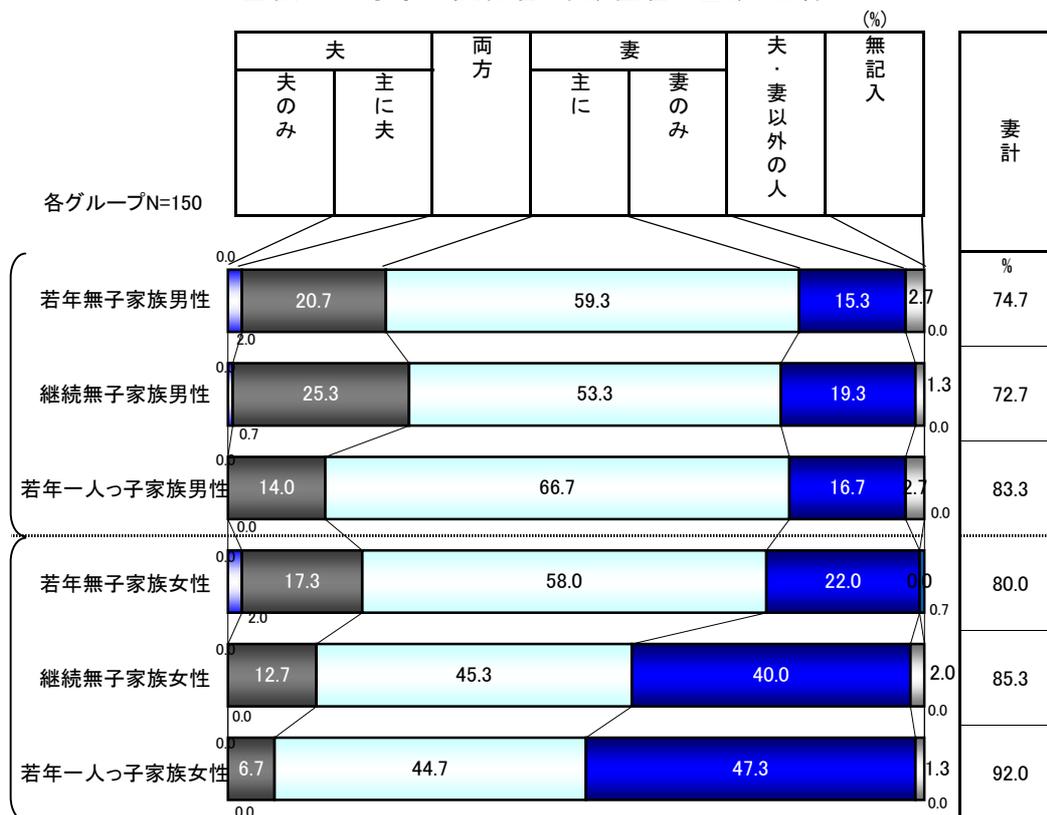
どのグループでも家事は「主に妻が行っている」と答える人が5～6割と多い。これに「妻のみ」を併せると、どのグループも7～8割に達し、大半が家事は妻任せにしていることがうかがえる。特に【若年一人っ子家族】は無子家族グループに比べて妻への依存度が高い。

【女性】

男性では「主に妻が行っている」という答えが多かったが、女性では「妻のみ」と答える人が半数前後を占めており、夫婦の意識にややギャップが見られる。

「妻のみ」と答える人は、【若年一人っ子家族】(47.3%)や【継続無子家族】(40.0%)に特に多い。

図表3-2. 家事の実行者(単数回答)(基数:全体)



3-3. 家事の負担感(Q11)

3-3-1. 本人の家事負担感

【男性】

家事について、どのグループでも3割強は負担感を感じている人がみられる。

特に【若年一人っ子家族】は妻への依存度が高いにもかかわらず、夫の負担感も高い(35.8%)。

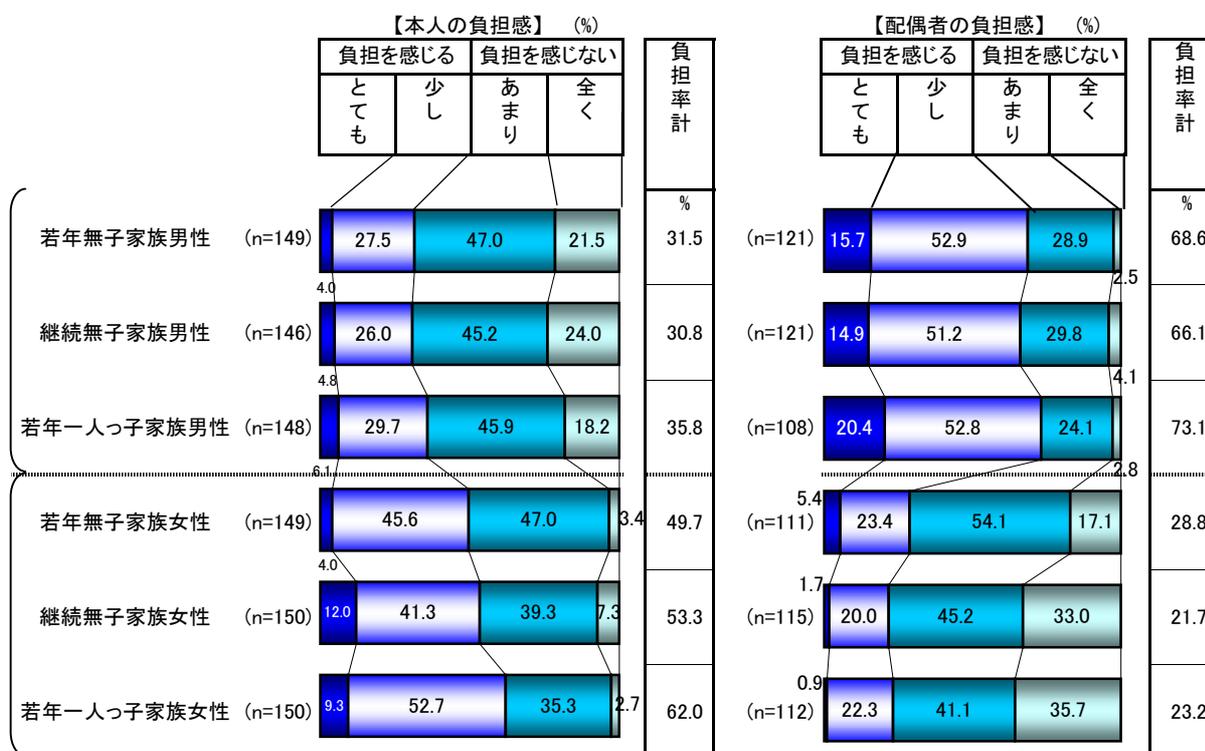
【女性】

【若年一人っ子家族】では6割強が負担感を感じているが、無子家族グループで負担感のある人は5割前後にとどまっており、子どもの有無による差がうかがえる。

3-3-2. 配偶者の家事負担感

男性が判断した妻の負担感は、女性本人が感じている負担感より高めに感じているが、女性が判断した夫の負担感は、男性本人が感じている負担感よりやや低くなっている。

図表3-3. 家事の負担感(単数回答)(基数:無回答者を除く全体)



3-4. 家族に対する意識

3-4-1. 『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』に対する意見(Q9-⑦)

【男性】

『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』の肯定者は若年グループでは4割程度、【継続無子家族】では3割強にとどまっている。

【女性】

『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』と考えている人は女性では、更に少なく、【若年一人っ子家族】、【継続無子家族】では3割、有職主婦が多い【若年無子家族】では4人に1人に留まっている。

3-4-2. 『妻の仕事の有無にかかわらず、夫は育児に積極的ににかかわるべきだ』に対する意見(Q9-⑨)

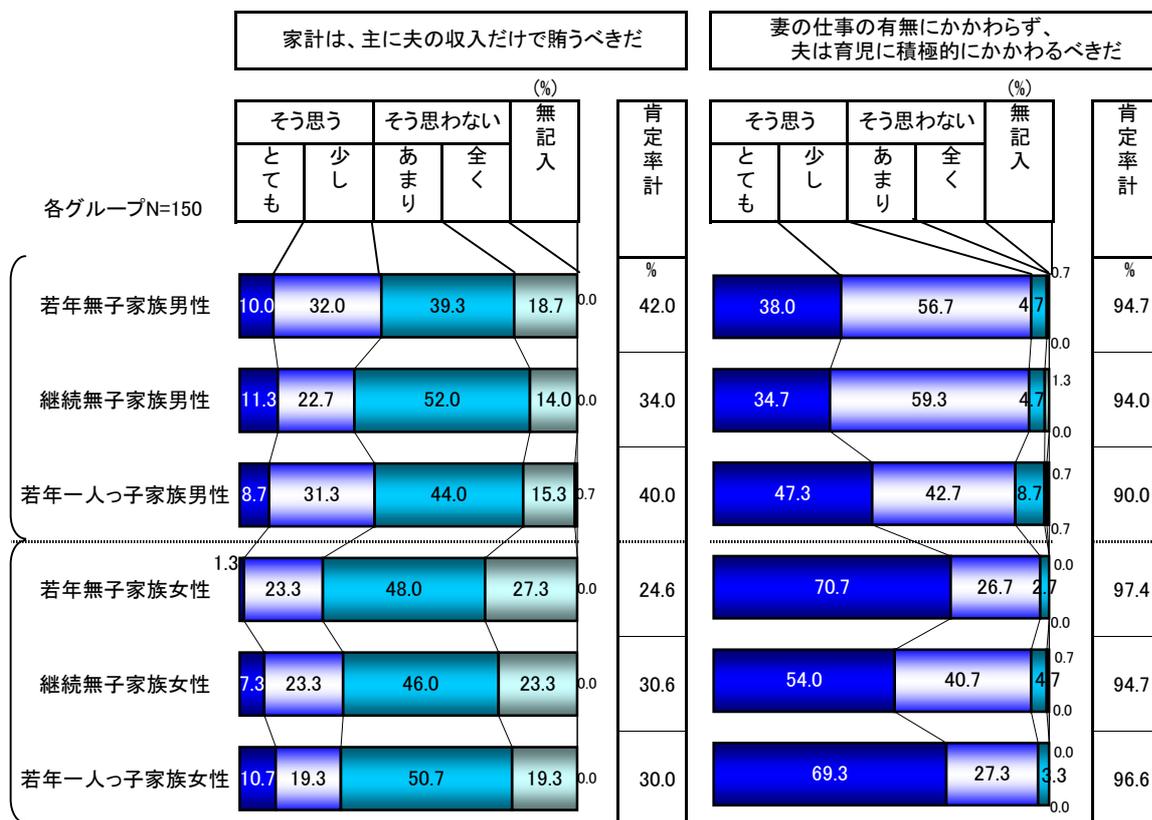
【男性】

大半は肯定しているが、【若年一人っ子家族】では積極的肯定者が半数近く見られるのに対し、無子家族グループでは4割未満にとどまっている。

【女性】

男性に比べて、女性では積極的肯定者が非常に多い。特に若年グループでは子どもの有無にかかわらず7割が積極的に肯定している。

図表3-4-1. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-4-3. 『子どもに対する父親・母親の役割を区別すべきでない』に対する意見(Q9-⑩)

【男性】

どのグループも6割前後が「区別すべきでない」と答えているが、積極的に肯定する人は少ない。特に、【継続無子家族】では2割未満にとどまっている。

【女性】

肯定率はどのグループでも男性より高くなっている。特に、実際に子どもがいる【若年一人っ子家族】の肯定率が高く、積極的肯定者が4割近く(38.0%)みられる。

3-4-4. 『意識して子どもを持たない夫婦は国の将来を考えると無責任だ』に対する意見(Q9-⑧)

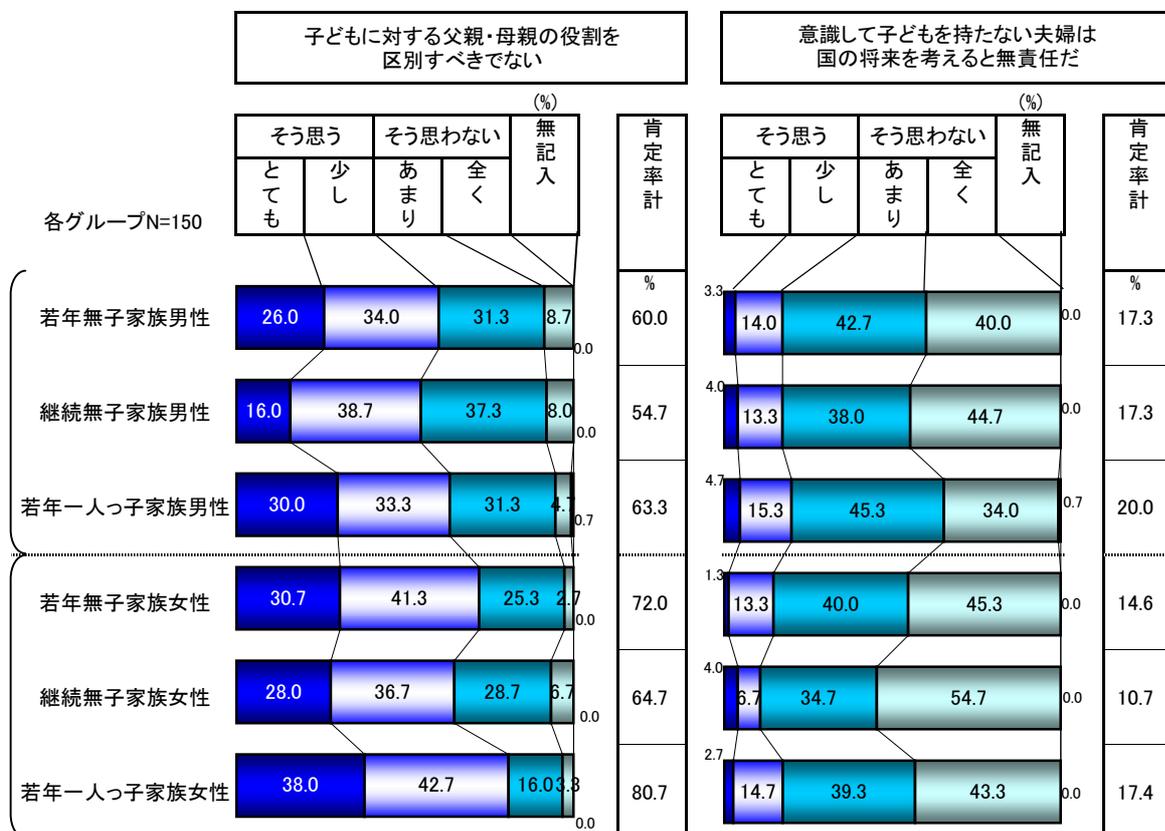
【男性】

どのグループでも肯定者は少なく、2割程度にとどまっている。

【女性】

男性より更に肯定者は少なく、1割台にとどまっている。特に【継続無子家族】の肯定率は低い。

図表3-4-2. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-4-5. 『親の老後は子どもが面倒を見るべきだ』に対する意見(Q9-12)

【男性】

【若年無子家族】は6割が肯定しているが、【若年一人っ子家族】、【継続無子家族】では肯定者が5割台にとどまっている。

【女性】

男性に比べ、肯定者はやや少なく、【継続無子家族】や【若年一人っ子家族】では肯定者が4割程度にとどまっている。

3-4-6. 『親と同居しなければならないとしたら、男性側の親と同居すべきだ』に対する意見 (Q9-13)

【男性】

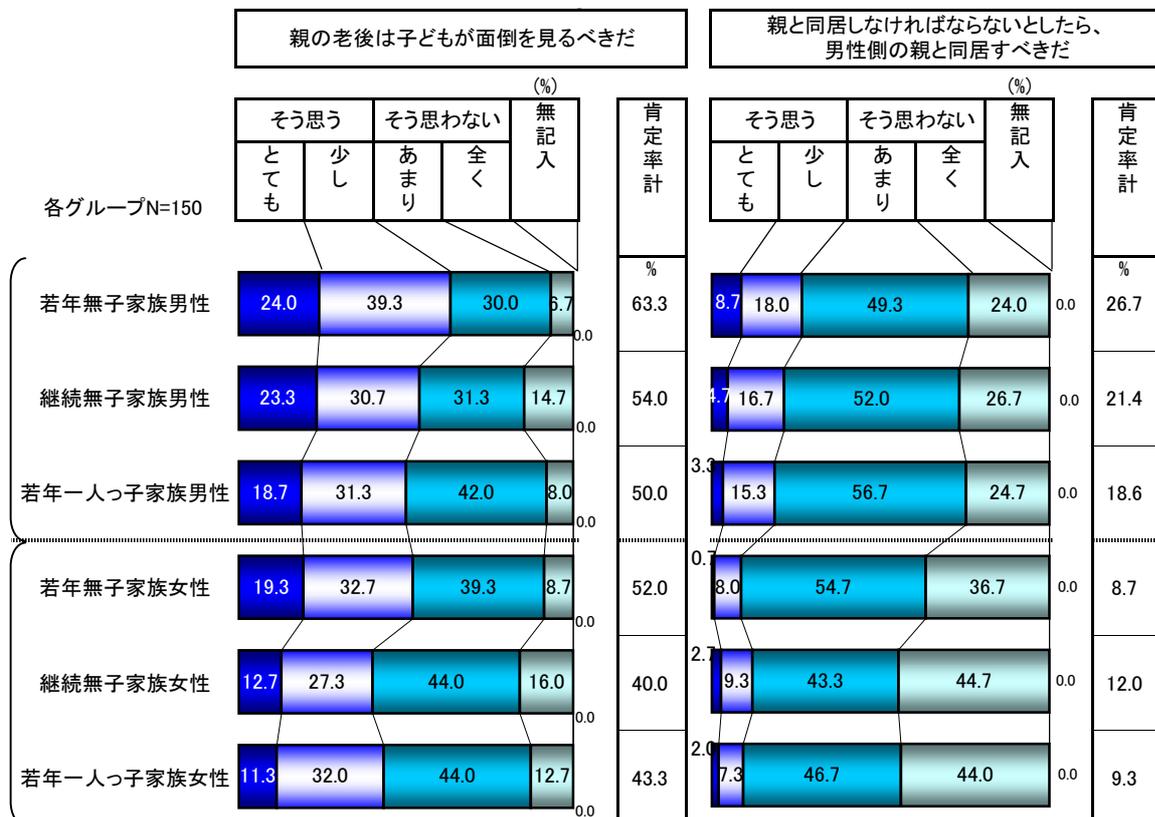
どのグループでも、この意見の肯定者は2割前後に留まり、5割前後が「あまりそう思わない」と答えている。

【女性】

肯定者は男性より更に少なく、どのグループも1割前後にとどまっている。

「全くそう思わない」という強い否定者がどのグループにも4割前後存在する。

3-4-3. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



者

割

3-5. 子どもの位置付け(Q15)

【男性】

子どもは何よりも「生きがい・喜び・希望」であり、「無償の愛を捧げる対象」「夫婦の絆を深めるもの」として位置付けられている。この認識はどのグループにも共通してみられる認識である。

実際に子どもがいる【若年一人っ子家族】では「生きがい・喜び・希望」「無償の愛を捧げる対象」と位置づける人が無子家族グループに比べて非常に多い反面、「独立した一人の人間」とみる人が少ないのが特徴である。

逆に【継続無子家族】は「生きがい・喜び・希望」「無償の愛を捧げる対象」「夫婦の絆を深めるもの」の割合は他グループに比べて低く、一方で「自分の血を後世に残せるもの」との認識が強い。

【女性】

女性の場合は、「生きがい・喜び・希望」、「無償の愛を捧げる対象」の2つが非常に高く、「夫婦の絆を深めるもの」がこれに続いている。

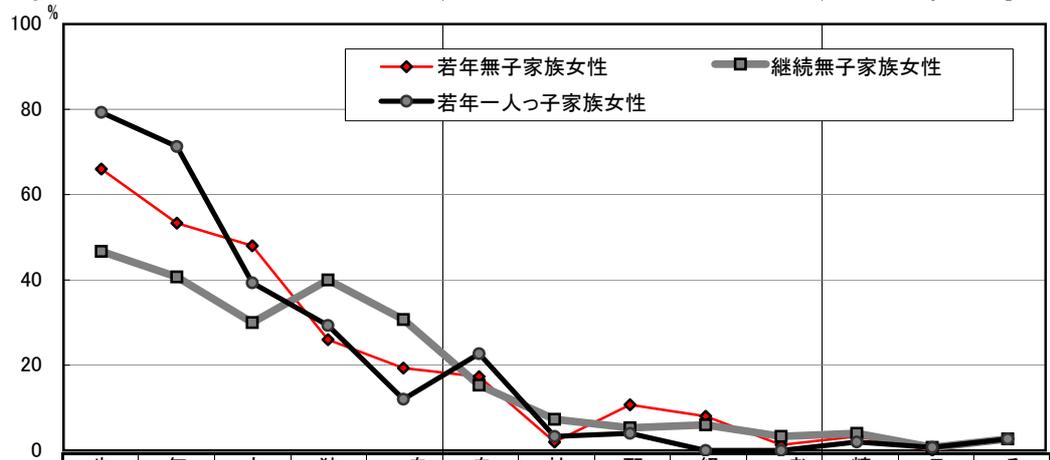
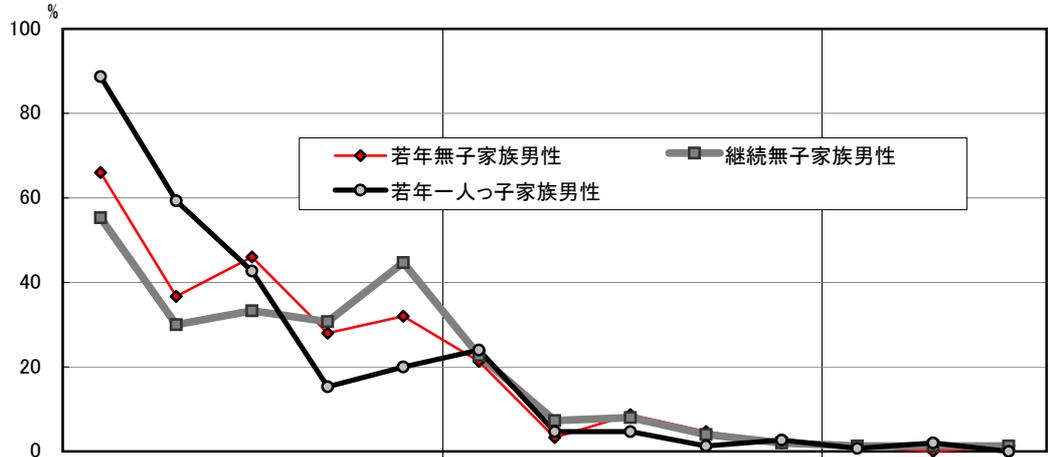
男性と同様、実際に子どもがいる【若年一人っ子家族】では「生きがい・喜び・希望」「無償の愛を捧げる対象」と位置づける人が無子家族グループに比べて非常に多く、「自分の分身」とする人も他グループに比べて多い。

一方、【継続無子家族】は「生きがい・喜び・希望」「無償の愛を捧げる対象」「夫婦の絆を深めるもの」の割合は他グループに比べて低く、一方で「独立した一人の人間」、「自分の血を後世に残せるもの」との認識が強い。

図表3-5-1. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体) 各グループN=150

		若年無子家族	%	継続無子家族	%	若年一人っ子家族	%
男性	1位	生きがい・喜び・希望	66.0	生きがい・喜び・希望	55.3	生きがい・喜び・希望	88.7
	2位	夫婦の絆を深めるもの	46.0	自分の血を 後世に残せるもの	44.7	無償の愛を捧げる対象	59.3
	3位	無償の愛を捧げる対象	36.7	夫婦の絆を深めるもの	33.3	夫婦の絆を深めるもの	42.7
	4位	自分の血を 後世に残せるもの	32.0	独立した一人の人間	30.7	自分の分身	24.0
	5位	独立した一人の人間	28.0	無償の愛を捧げる対象	30.0	自分の血を 後世に残せるもの	20.0
女性	1位	生きがい・喜び・希望	66.0	生きがい・喜び・希望	46.7	生きがい・喜び・希望	79.3
	2位	無償の愛を捧げる対象	53.3	無償の愛を捧げる対象	40.7	無償の愛を捧げる対象	71.3
	3位	夫婦の絆を深めるもの	48.0	独立した一人の人間	40.0	夫婦の絆を深めるもの	39.3
	4位	独立した一人の人間	26.0	自分の血を 後世に残せるもの	30.7	独立した一人の人間	29.3
	5位	自分の血を 後世に残せるもの	19.3	夫婦の絆を深めるもの	30.0	自分の分身	22.7

図表3-5-2. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体)



	生きがい・喜び・希望	無償の愛を奉げる対象	夫婦の絆を深めるもの	独立した一人の人間	自分の血を後世に残せるもの	自分の分身	社会的資産	配偶者の分身	経済的負担を与えるもの	老後の面倒を見る人	精神的負担を与えるもの	ライバル	その他
--	------------	------------	------------	-----------	---------------	-------	-------	--------	-------------	-----------	-------------	------	-----

各グループN=150														(%)
若年無子家族男性	66.0	36.7	46.0	28.0	32.0	21.3	3.3	8.7	4.7	2.0	1.3	0.0	1.3	
継続無子家族男性	55.3	30.0	33.3	30.7	44.7	22.7	7.3	8.0	4.0	2.0	1.3	1.3	1.3	
若年一人っ子家族男性	88.7	59.3	42.7	15.3	20.0	24.0	4.7	4.7	1.3	2.7	0.7	2.0	0.0	
若年無子家族女性	66.0	53.3	48.0	26.0	19.3	17.3	2.0	10.7	8.0	1.3	3.3	0.0	2.7	
継続無子家族女性	46.7	40.7	30.0	40.0	30.7	15.3	7.3	5.3	6.0	3.3	4.0	0.7	2.7	
若年一人っ子家族女性	79.3	71.3	39.3	29.3	12.0	22.7	3.3	4.0	0.0	0.0	2.0	0.7	2.7	

3-6. 子どもに残したいもの・伝えたいもの(Q18)

【男性】

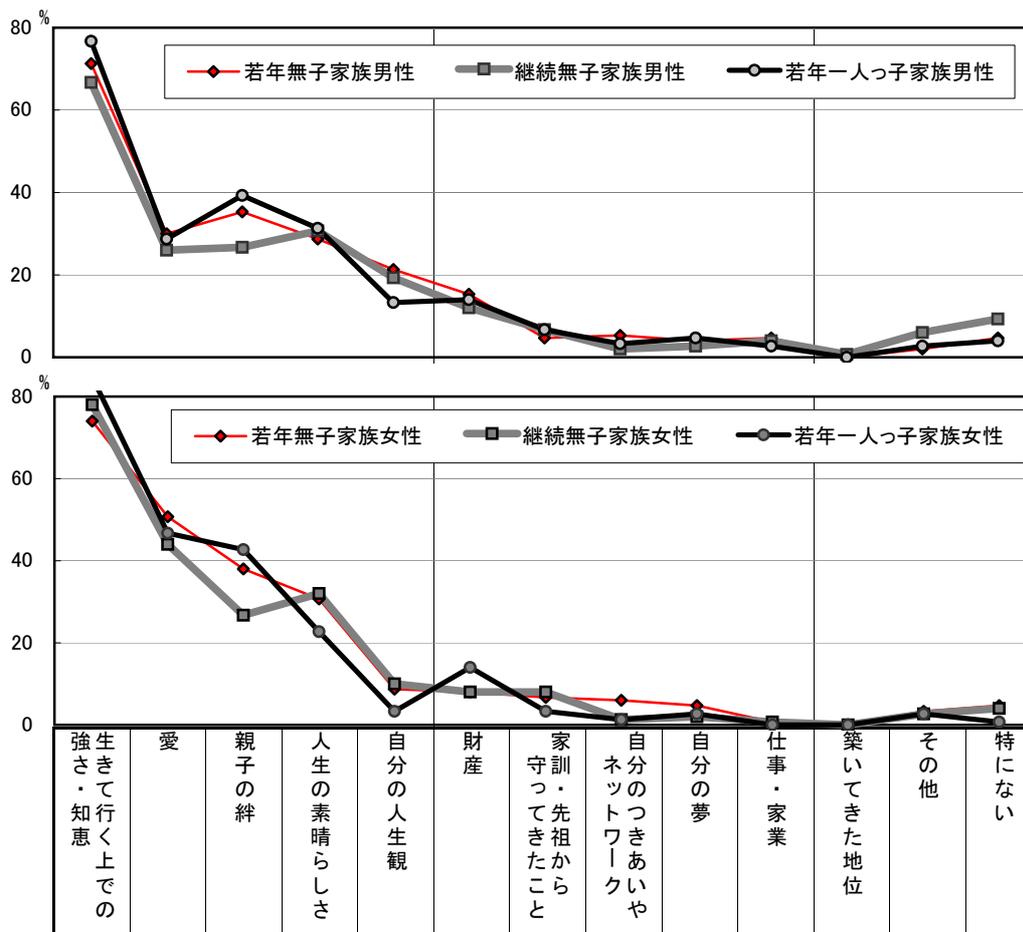
どのグループもまず第一に「生きていく上での強さ・知恵」を身につけさせたいと考えており、その割合は7割前後に達する。また「愛」「親子の絆」「人生の素晴らしさ」を挙げる人もそれぞれ3割前後みられる。

【女性】

「生きていく上での強さ・知恵」は、男性同様、どのグループでも最も多く、次いで「愛」が4～5割で続いている。

【若年無子家族】では「愛」、【若年一人っ子家族】では「親子の絆」が他グループに比べて高い。「人生の素晴らしさ」は無子家族グループの割合が、【若年一人っ子家族】に比べて高くなっている。

図表3-6. 子どもに残したい・伝えたいもの(回答3つまで)(基数:全体)



各グループN=150

	生きていく上での強さ・知恵	愛	親子の絆	人生の素晴らしさ	自分の人生観	財産	家訓・先祖からこと	ネットのつきあいや	自分の夢	仕事・家業	築いてきた地位	その他	特にない
若年無子家族男性	71.3	30.0	35.3	28.7	21.3	15.3	4.7	5.3	4.0	4.7	0.0	2.0	4.7
継続無子家族男性	66.7	26.0	26.7	30.7	19.3	12.0	6.7	2.0	2.7	4.0	0.7	6.0	9.3
若年一人っ子家族男性	76.7	28.7	39.3	31.3	13.3	14.0	6.7	3.3	4.7	2.7	0.0	2.7	4.0
若年無子家族女性	74.0	50.7	38.0	30.7	8.7	8.0	6.7	6.0	4.7	0.7	0.0	3.3	4.7
継続無子家族女性	78.0	44.0	26.7	32.0	10.0	8.0	8.0	1.3	2.0	0.7	0.0	2.7	4.0
若年一人っ子家族女性	84.7	46.7	42.7	22.7	3.3	14.0	3.3	1.3	2.7	0.0	0.0	2.7	0.7